

<定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

※◎:警報レベル

○:注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県) 第1~11週
	第10週	第10週	第11週	増減	第10週	第11週	増減	第10週	第11週	増減	第10週	第11週	増減	第10週	第11週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(48)			(20)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	59575 12.05	833 ◎17.35	677 ◎14.10	▼	281 ◎14.05	226 ◎11.30	▼	101 ○20.20	84 ○16.80	▼	212 ◎21.20	189 ◎18.90	▼	239 ◎18.38	178 ◎13.69	▼	13853
小児科定点 (定点医療機関数)		(30)			(13)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	1282 0.41	5 0.17	4 0.13	▽	2 0.15	2 0.15		1 0.33		△	2 0.33	1 0.17	▽	1 0.13		▽	135
咽頭結膜熱	861 0.27	12 0.40	10 0.33	▼	8 0.62	4 0.31	▼				3 0.50	4 0.67	△	1 0.13	2 0.25	△	183
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8317 2.64	105 3.50	128 4.27	△	40 3.08	55 4.23	△	6 2.00	3 1.00	▽	47 ◎7.83	48 ◎8.00	△	12 1.50	22 2.75	△	1498
感染性胃腸炎	15770 5.00	149 4.97	129 4.30	▽	78 6.00	48 3.69	▽	8 2.67	11 3.67	▲	29 4.83	28 4.67	▼	34 4.25	42 5.25	△	1444
水痘	826 0.26	12 0.40	3 0.10	▽	3 0.23		▽				7 1.17	3 0.50	▽	2 0.25		▽	148
手足口病	421 0.13	18 0.60	8 0.27	▽	17 1.31	7 0.54	▽				1 0.17	1 0.17					193
伝染性紅斑	180 0.06	2 0.07	4 0.13	△	1 0.08	1 0.08						3 0.50	△	1 0.13		▽	46
突発性発しん	1090 0.35	21 0.70	17 0.57	▽	3 0.23	7 0.54	△	2 0.67	2 0.67		9 1.50	4 0.67	▽	7 0.88	4 0.50	▽	138
ヘルパンギーナ	36 0.01	2 0.07	4 0.13	▲	2 0.15	4 0.31	▲										22
流行性耳下腺炎	396 0.13	3 0.10	2 0.07	▽							1 0.17	1 0.17		2 0.25	1 0.13	▽	34
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	8 0.01																
流行性角結膜炎	367 0.53	3 0.38		▼	2 0.50		▼							1 0.50		▽	14
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	134 0.28	2 0.20		▼	2 0.50		▼										8
クラミジア肺炎	9 0.02																
マイコプラズマ肺炎	58 0.12	1 0.10	3 0.30	△	1 0.25	3 0.75	△										37
細菌性髄膜炎	6 0.01		1 0.10	△											1 0.33	△	4
無菌性髄膜炎	8 0.02																2

<全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
結核	患者	1	1			※内、第8週追加分1件。
	無症状病原体保有者			1		
クロイツフェルト・ヤコブ病	患者	1				
水痘(入院例)	患者		1			
百日咳	患者	3				ワクチン接種歴:4回 3件
侵襲性肺炎球菌感染症	患者				1	※第2週追加報告分。ワクチン接種歴:1回

<通信欄>

※トピックスで、インフルエンザ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎について掲載しています。

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

< 定点把握感染症 報告患者数 年齢別 >

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ	4	6	30	41	43	58	46	51	43	39	28	153	20	10	
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									合計
	20	22	20	26	8	9									677
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症		2		1		1									4
咽頭結膜熱		1	4	1	3	1									10
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			2	10	8	23	22	14	13	11	5	19	1		128
感染性胃腸炎	3	5	16	20	14	11	15	9	6	8	4	15		3	129
水痘											3				3
手足口病			5	1		1			1						8
伝染性紅斑					2	2									4
突発性発しん		4	12	1											17
ヘルパンギーナ			1	1	2										4
流行性耳下腺炎						1					1				2

< 平成30年2月 月報 >

2018年3月22日 発行

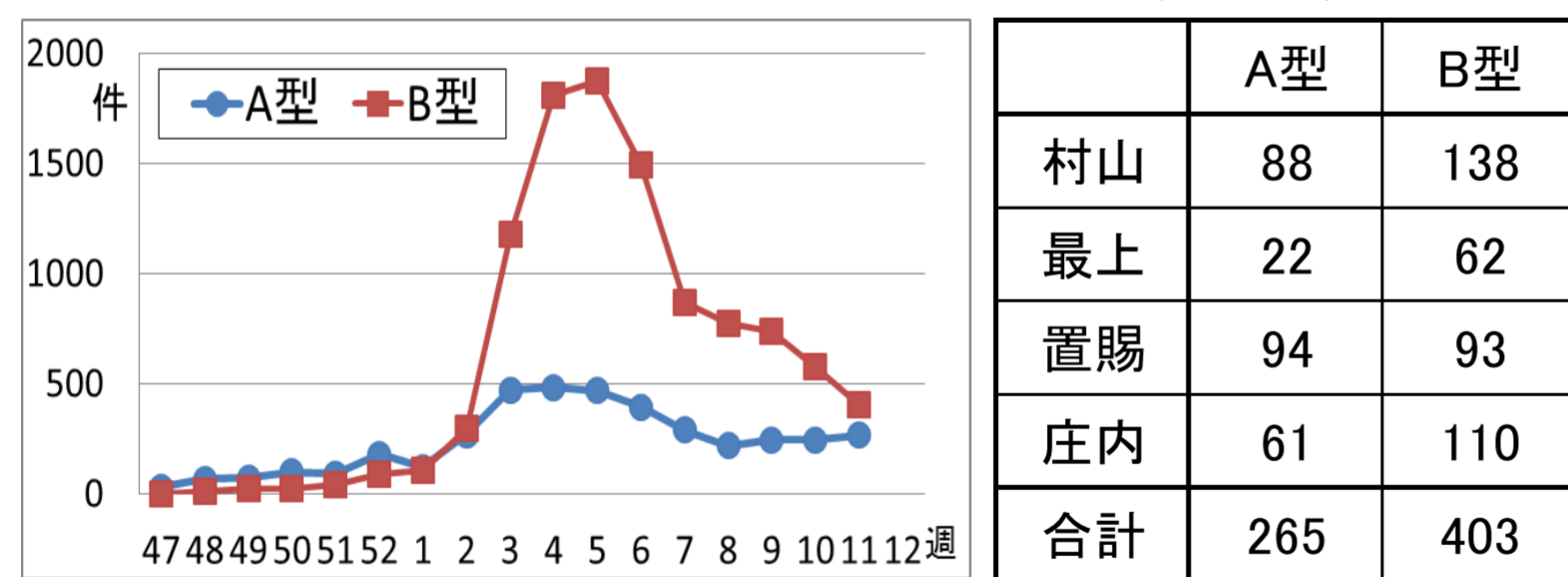
疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～2月	
	1月	2月	1月	2月	1月	2月	1月	2月	1月	2月		
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	19	19	5	9	9	7	1		4	3	38
	定点当り	1.90	1.90	1.25	2.25	9.00	7.00	0.50		1.33	1.00	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	9	11	2	1		4	3	3	4	3	20
	定点当り	0.90	1.10	0.50	0.25		4.00	1.50	1.50	1.33	1.00	
尖圭コンジローマ	報告数	3	2	1	1					2	1	5
	定点当り	0.30	0.20	0.25	0.25					0.67	0.33	
淋菌感染症	報告数	3		2						1		3
	定点当り	0.30		0.50						0.33		
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	3	6			1		2	3	3		9
	定点当り	0.30	0.60			1.00		1.00	1.00	1.00		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	20	13	6	5	2		3	2	9	6	33
	定点当り	2.00	1.30	1.50	1.25	2.00		1.50	1.00	3.00	2.00	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数											
	定点当り											

< トピックス >

【インフルエンザ情報】

第11週の県全体の定点当たり報告数は14.10人で、警報レベルが継続しています。地区別では、村山・置賜・庄内地区は警報レベル、最上地区は注意報レベルとなっています。

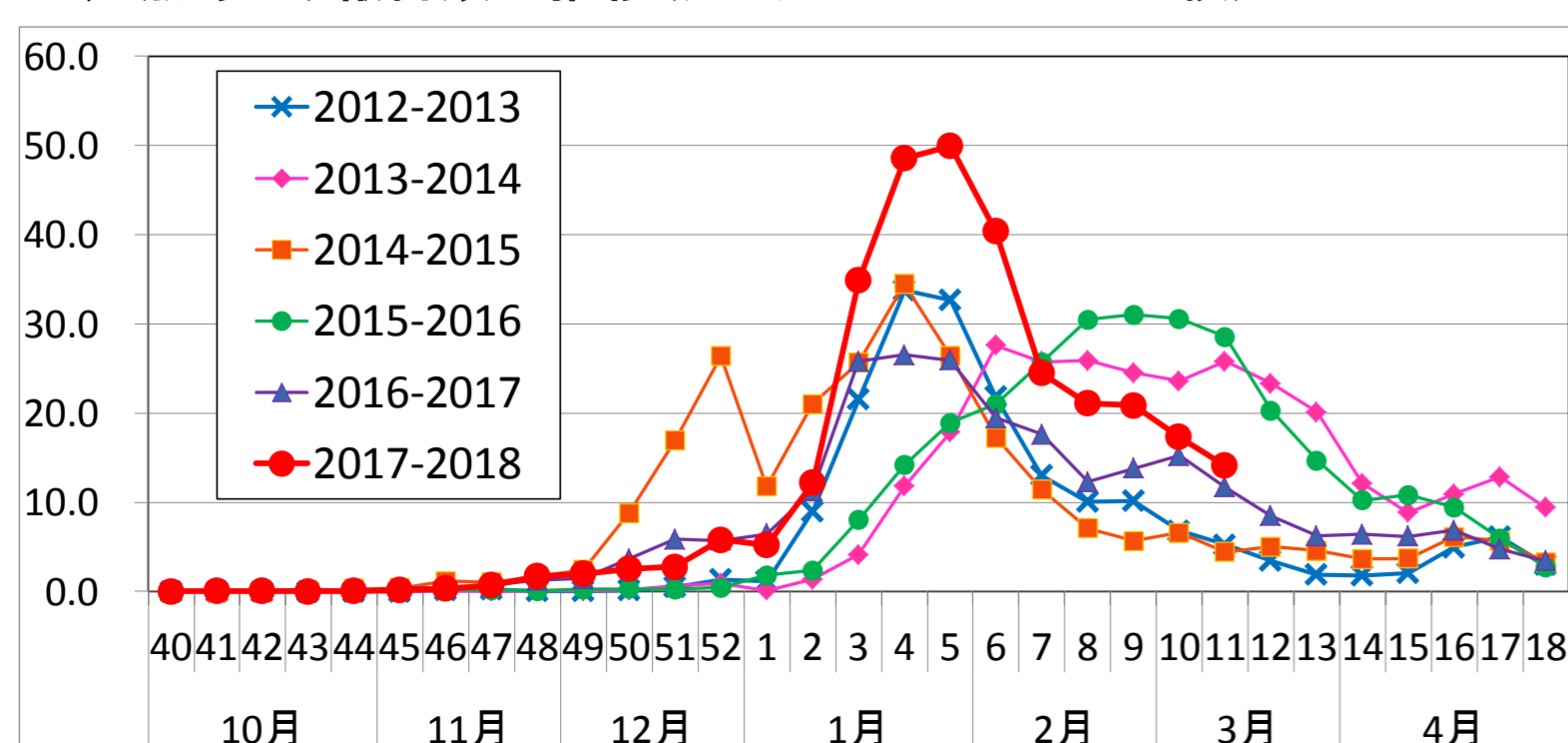
1 迅速診断キットによるインフルエンザウイルスの陽性件数(第11週)



2 集団発生状況 (県健康福祉企画課まとめ 第11週)

	村山	最上	置賜	庄内	合計
幼稚園・保育所	2		1	4	7
小学校	2		2		4
中学校	3			1	4
福祉施設	1				1
合計	8	0	3	5	16

3 定点あたり報告数の推移(過去5シーズンとの比較)



【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎情報】

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数が、置賜地区で警報レベルとなっています。

・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
警報開始基準値:8人 警報終息基準値:4人
・第11週定点当たり報告数(山形県:4.3人)
村山地区 4.2人、最上地区1.0人、置賜地区 8.0人、庄内地区 2.8人

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

A群溶血性レンサ球菌による上気道の感染症で、山形県では、冬から春にかけて報告数のピークがみられます。

【症状】

2～5日の潜伏期の後、突然の発熱(38℃以上)、咽頭発赤、莓舌(写真1)などの症状が現れます。通常、熱は3～5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善します。治療は、抗菌剤が有効です。肺炎などの合併症を防ぐためにも、症状が改善しても医師に指示された期間、薬を飲むことが大切です。

【感染経路と予防法】

この病気は、患者の咳やくしゃみ等のしぶきに触れること等で感染します。患者との濃厚接触を避け、手洗いや咳エチケット等の一般的な予防対策を心がけましょう。



写真1: 典型的な莓舌
(国立感染症研究所ホームページより)